

# APO Letter

2025

Vol. 90

March

〈座談会〉

## ■ 在宅・緩和医療における地域連携と薬局薬剤師の役割

医療法人 白髭内科医院 院長  
認定NPO法人 長崎在宅Dr.ネット  
副理事長

白髭 豊 先生

ペンギン薬局  
一般社団法人長崎県薬剤師会  
副会長

中村 美喜子 先生

株式会社ビーネンミツバチ薬局 代表取締役  
一般社団法人長崎市薬剤師会  
副会長

下坂 健 先生





## C O N T E N T S

### ● Round-table Talk 1

#### 在宅・緩和医療における 地域連携と薬局薬剤師の役割

在宅医療における  
そうごう薬局 在宅調剤センター  
青砥店の取り組み 7

総合メディカルの在宅関連研修 8

さくらファーマシー薬局  
専門医療機関連携薬局認定 9

そうごう薬局 日向店  
専門医療機関連携薬局認定 10

● 健康サポート薬局 Report  
行政と連携してがん検診啓発  
イベントを開催しました  
(福井ブロック) 11

「こども薬剤師体験会」を  
開催しました  
(そうごう薬局 麻布台ヒルズ店)

1型糖尿病患者会の開催  
(そうごう薬局 天神中央店) 12

2024年 学会発表演題紹介 13

総合メディカルの人財育成 14

# 在宅・緩和医療における 地域連携と薬局薬剤師の役割



Round-table  
Talk

2023年6月審査分のレセプトにおいて在宅患者訪問診療料(主治医による診療、月1回以上)の算定患者は前年比5万4108人(5.7%)増の100万1102人であり<sup>1)</sup>、現在日本においては100万人を超える患者さんが在宅で治療を受けていると考えられ、2041年にはその数は172万人に達するという推計もあります<sup>2)</sup>。また厚生労働省の調査では、最期を自宅で迎えたいと考える患者さんは43.8%であるのに対し、実際の死亡場所は医療機関が67%、自宅が17%であったという報告もあります<sup>3)</sup>。今回は長崎で在宅療養を希望する患者さんをネットワークでサポートする長崎在宅Dr.ネットを立ち上げるとともに、緩和ケア普及にも貢献する白髭内科医院院長の白髭豊先生と、薬局薬剤師として在宅医療に取り組む中村美喜子先生、下坂健先生を迎え、「在宅・緩和医療における地域連携と薬局薬剤師の役割」というテーマで座談会を開催しました。

- 1) 厚生労働省「2023年社会医療診療行為別統計」より  
2) 株式会社日本総合研究所「JRIレビュー 2024 Vol.4, No.115」  
3) 厚生労働省「令和6年度の同時報酬改定に向けた意見交換会(第3回)資料-1【テーマ6】人生の最終段階における医療・介護」

[出席者]



**白髭 豊** 先生  
医療法人  
白髭内科医院 院長  
認定NPO法人  
長崎在宅Dr.ネット  
副理事長



**中村 美喜子** 先生  
ペンギン薬局  
一般社団法人  
長崎県薬剤師会  
副会長



**下坂 健** 先生  
株式会社ビーネン  
ミツバチ薬局 代表取締役  
一般社団法人  
長崎県薬剤師会  
副会長



**柳井 英伸**  
総合メディカル  
株式会社  
そうごう薬局  
長崎南ブロック  
ブロック長



**大場 雄貴**  
総合メディカル  
株式会社  
そうごう薬局  
長崎昭和町店  
薬局長



**高山 明美**  
総合メディカル  
株式会社  
そうごう薬局  
大村駅前店  
専門薬剤師



**坂本 直大**  
総合メディカル  
株式会社  
薬局運営本部  
在宅推進部  
在宅医療G  
福岡西ブロック  
専門薬剤師



## 長崎在宅Dr.ネットとP-ネットについて

**柳井** 総合メディカルグループは在宅医療への対応に力を入れており、社内での研修も積極的に行っているところですが<sup>※1</sup>、長崎ではまだまだ対応状況は十分ではありません。本日は現場で在宅・緩和医療をメインで対応している薬剤師2名と、在宅推進部の坂本が参加し、在宅対応において地域連携をどのようにすればいいのか、学ばせていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

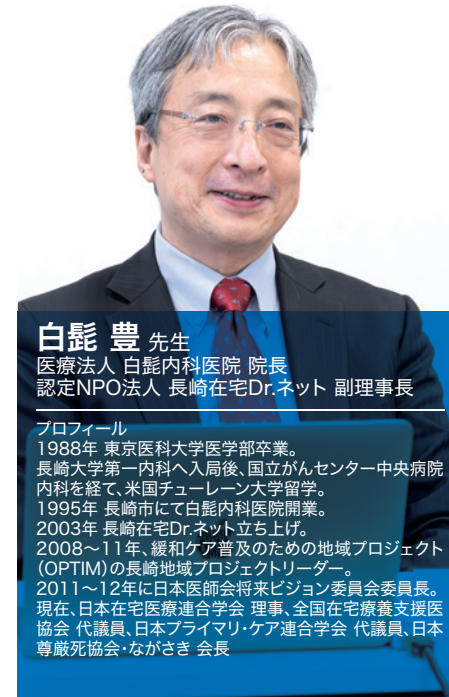
**白髭** それではまず私のほうから、長崎在宅Dr.ネットについて、ご説明いたします。長崎在宅Dr.ネットは在宅に関わる医師のネットワークで2003年に立ち上げましたが、その背景には長崎の地理的な特徴が大きく関わっています。ご存じのように長崎市は坂道や階段が多く、医師が患者さんのご自宅に訪問するのは非常に過酷な環境です。ただ一方で人口10万人当たりの診療所の数は、当時日本で最も多かったのもので、それならば複数の開業医で協力して在宅療養に対応すれば良いのではないかと、というのが長崎在宅Dr.ネット立ち上げの根本的な考え方です。取り組みを図式化したものをお示しします(図1)。長崎在宅Dr.ネットが連携窓口となっても在宅療養を希望する方に主治医を紹介しますが、その際に主治医をバックアップする副主治医を確保することで訪問診療の分担と緊急対応に備える仕組みを確立し、在宅医療での24時間対応体制

を実現しています。実際に副主治医が主治医に代わって看取りや往診代行を行う件数は少ないものの、主治医にとっては万が一の場合に代行依頼できる副主治医がいるという安心感が在宅医療を行う上での負担感軽減に大きな効果があると考えられます。当初は13名からのスタートでしたが、現在は認定NPO法人としており、会員数は212名になりました。内訳としては、主治医、副主治医として実際に在宅診療を行う連携医が98名、皮膚科、眼科、耳鼻科などの専門医が59名、そして必要に応じて助言や病診連携の橋渡しをする病院・施設医が55名となっています。長崎在宅Dr.ネットの会員医師の間でもさまざまな活動を行っていますが、なかでも在宅移行した症例についての検討会には会員医師を含め、毎回200名から400名の多職種が参加しており、非常に有意義な会となっています。

また長崎在宅Dr.ネットはその名の通り、在宅医療に関わる医師のネットワークですが、長崎ではP-ネットという薬剤師のネットワークもあります。こちらは現在、事務局を務めていただいている中村先生にご説明していただきます。

**中村** 私は長崎市内の薬局で調剤、服薬指導を行いながら、在宅の患者さんに対しては居宅療養管理指導<sup>\*2</sup>と在宅患者訪問薬剤管理指導<sup>\*3</sup>を実施しています。P-ネットは正式名称として長崎薬剤師在宅医療研究会とある通り、在宅医療に関わる薬剤師のネットワークで、現在その事務局を務めさせていただいております。P-ネットは長崎

在宅Dr.ネットが結成された4年後の2007年に、数名の有志の薬剤師によりスタートしました。きっかけとしては在宅医療が浸透し始め、看取りも増えてきたときに、医療用麻薬の処方を受けられないケースが散見され、在宅医から「何とかしてほしい」という要望を受けたことです。従ってP-ネットの会員は原則、麻薬の発注が可能な薬剤師で、小規模薬局の経営者が多くを占めています。また24時間稼働できるのも特徴だと思います。P-ネットは、発足当初から「依頼があったら断らない」ことをモットーとし、長崎在宅Dr.ネットの受け皿として機能させていくことを目標の一つに掲げました。そのため、



長崎在宅Dr.ネットの主治医・副主治医制にない、担当薬局とサポーター薬局を定める仕組みをつくり、また会員同士が互いに情報共有をし、症例検討会や研修会を通じてスキルアップを図る体制を整えてきました。現在P-ネットには、長崎市とその周辺の保険薬局の薬剤師31名が参加していますが、病院薬剤師の先生にもご参加いただき、医療用麻薬の使い方や抗がん剤の副作用などについてアドバイスをいただいています。

対応することとしていますが、島原地区についてはグループ内で対応できる薬局がないので、薬剤師会に依頼して地域の薬局と共同で対応しています。

**中村** P-ネットもこれまでは無菌調剤の共同利用などを調整、サポートすることが多かったのですが、活動を通じて顔の見える関係ができてきましたので、最近は薬局同士で直接連絡を取り合うケースが増えてきました。

**下坂** 私の経験ですが、P-ネットは顔の見える関係で薬剤師さんのスキルも高いため、自分が急病で行けなくなってしまった時にも電話1本ですぐに行っていただけるというのは、すごくありがたいと思っています。長崎市薬剤師会が在宅を受け入れる薬局をホームページで公開しており<sup>\*1</sup>、医師からの依頼を受けて対応薬局を紹介するという、従来P-ネットが果たしていた役割を薬剤師会でも行っています。ただこれに関してはルールがあって、かかりつけ薬剤師がいる場合はそちらが優先となり、まずはかかりつけ薬剤師にお声がけいただくということになっています。

**中村** 病院の地域連携室から、在宅に対応した薬局を紹介してほしいとの依頼を受けることも多いのですが、その場合でも必ず「かかりつけ薬局はありますか?」とお聞きするようにしています。ただ、かかりつけの薬剤師が麻薬など緩和医療についての経験が浅かったりすることもあるので、やはり地域での底上げが必要だと感じています。P-ネットの活動

※1 総合メディカルグループの在宅研修については、本誌8ページをご参照ください。

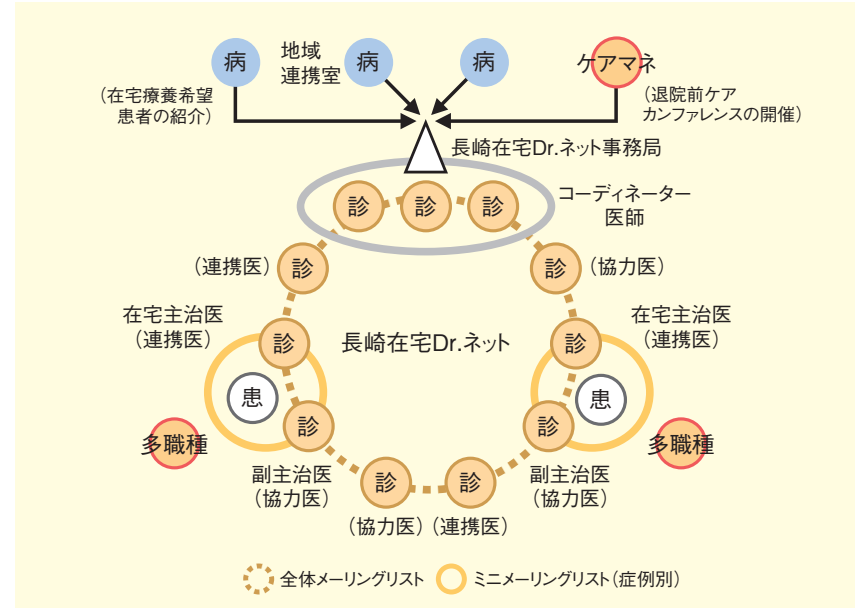
※2 居宅療養管理指導:要介護認定を受けている65歳以上の患者さんを対象として医療従事者が自宅や入居している施設を訪ね、安心して日常生活を送れるよう支援・指導を行う介護保険のサービス。

※3 在宅患者訪問薬剤管理指導:要介護認定を受けていない、通院が困難な患者さんに対して薬剤師が自宅や施設を訪ねて薬学的管理指導を行う医療保険のサービス。

## 在宅における緩和医療について

**柳井** P-ネット発足のきっかけとして、医療用麻薬処方  
の応需の問題があったとお聞きました。総合メディカルグ  
ループにおいても、現在長崎県下で24薬局があり、在宅  
は全ての薬局で対応可能ですが、緩和医療や終末期の  
段階になると、無菌調剤に対応しているところが6薬局と、  
まだなかなか受けきれていないという現状になります。そ  
こで現在は各地区に1ヵ所は無菌調剤に対応した薬局を配  
置して、近くの薬局が無菌調剤室を共同利用することで

図1. 長崎在宅Dr.ネットの主治医・副主治医制による24時間診療体制とグループ診療

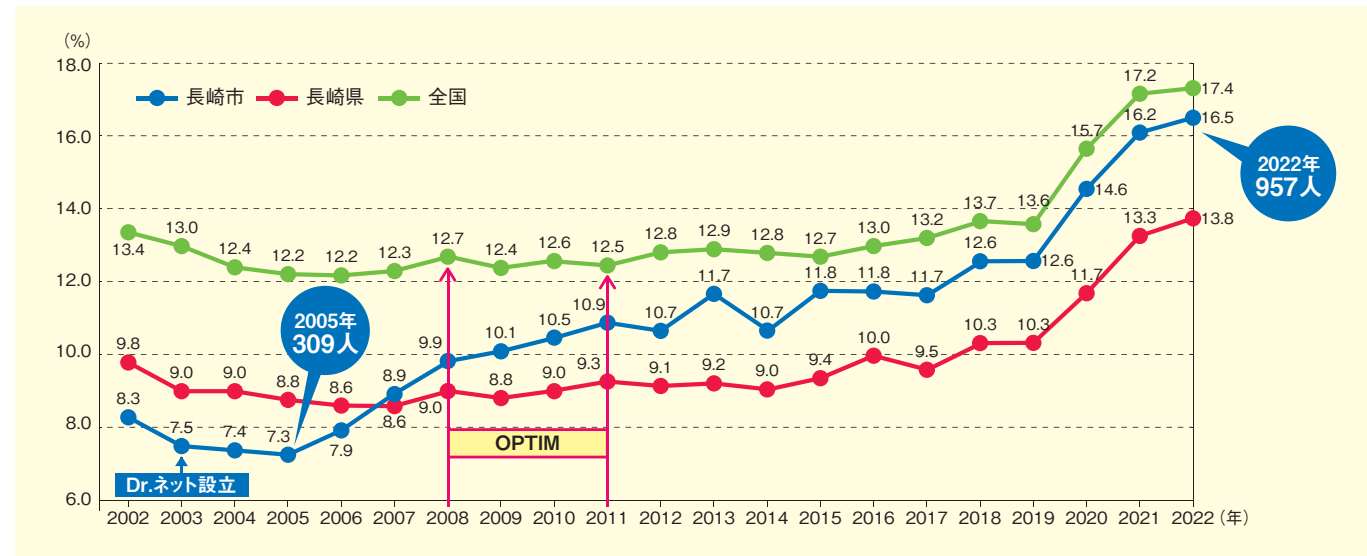


白髭先生ご提供

厚生労働省 第4回在宅医療及び医療・介護連携に関するワーキンググループ(令和4年7月20日)資料より



図2. 長崎県、長崎市での自宅死率の経年変化



白髭先生ご提供  
令和4年人口動態統計 保管統計表 都道府県編 死亡第4表 死亡数、都道府県・市町村・死亡の場所別 より

については、以前に日経BP社より、「訪問薬剤管理指導 はじめの一步と次への一步」という書籍が出版され、症例や連携、研究会の在り方などが紹介されました。この本が契機となって全国で同様の組織作りが行われ、私自身も数多く講演を行いましたので、地域での底上げに貢献できたかと思っています。

**高山** そうごう薬局は大村市に5店舗あるのですが、やはり地域連携室から依頼を受けることも多く、これまではなんとかその5店舗の中で対応するようにしていたのですが、まずかかりつけ薬局を確認することが重要なんですね。患者さんの安心、地域の薬局の連携にもつながりますので、これからは必ずお聞きするようにします。

**白髭** 緩和ケアについては、2007年度に厚生労働省の「緩和ケア普及のための地域プロジェクト(OPTIM)」という研究事業があり、長崎市が4つの介入地域の一つとして選ばれました。2008年から3年間のプログラムで、長崎市では、緩和ケアの標準化、地域連携の強化、専門的緩和ケアサービスの利用の向上、市民への情報提供を目的としました。この中で、長崎市では医療用麻薬管理取扱いに関する作業部会を立ち上げ、不要となった医療用麻薬の薬局への持ち込みを患者・家族にすすめるためのリーフレットを作成し、長崎市内約350の保険薬局に配布しました。同じくこのプロジェクトの一環として「訪問薬剤指導のススメ」という薬剤師向けの啓発DVDも作成しており、この中でも麻薬の廃棄手順や訪問薬剤指導のやり方などを紹介しています。

最期は自宅で迎えたいと考える患者さんが多い中で、こうしたOPTIMの取り組みや長崎在宅Dr.ネット、P-ネットの活動によって長崎市の自宅死率も上がってきています(図2)。

2005年には309名だったのが、2022年時点では957名となり、患者さんやご家族のご要望に応えることができていないのではないかと思います。

※1 長崎市薬剤師会 在宅受入薬局一覧  
<https://www.nas.or.jp/cooperation/list.html>

## 連携における情報共有

**坂本** 私は福岡市内で在宅推進部というところに所属しています。福岡市内ではそうごう薬局が30店舗ほどありますが、グループ内であれば患者さんの薬歴や服薬指導歴なども共有できています。ただ、今後他の薬局との連携も進んでいくと思われる中で、長崎ではどのように情報を共有されているのか、お聞かせ願えないでしょうか。

**白髭** 多くのメディアでも取り上げていただいた「あじさいネット」という仕組みがあります。これは長崎在宅Dr.ネット発足の翌年、2004年に大村市で発足し、現在では長崎県全域をカバーしています。情報共有に同意した患者さんのカルテなどの医療情報について、登録された情報閲覧施設で確認することができるのですが、現時点で15万人を超える患者さんが登録しており、情報閲覧施設は358に上る全国で最大規模の医療情報ネットワークです。この仕組みを多職種連携ツールとして、在宅医療チーム間の情報共有のために使う取り組みも始まっています。薬局での利用においては、2016年の長崎県薬剤師会団体入会を契機に薬局の加入が大幅に増加し、調剤情報連携システムの運用準備も進められています。

**坂本** そうごう薬局でもいくつかの店舗はあじさいネットに情報閲覧施設として登録していたと思います。基本的な情

報の確認においては、とても有用なツールだと思いますが、例えば患者さんやご家族の性格であったり、経済的状況など、ナイーブな情報をうまく共有できる方法があればいいと思っています。

**白髭** 求める情報の内容や医師によって利用するシステムはさまざまです。確かに仰るような情報の場合はメールやSNS等を使うことが多いですね。

**下坂** 当薬局では、あじさいネットやメールやSNSでの情報共有以外にも、患者さん1人ずつ紙でファイルをつかって、それをまとめて、連携する薬剤師に渡しているという状況です。全部、紙にしています。

**中村** 私もだいたい紙にしています。特に災害時のことなどを想定すると、お薬手帳は紙がいいですね。

**坂本** 熊本の地震のときに現地へ応援で入ったのですが、その時にも紙のお薬手帳はとても重宝しました。当社の中には、「お薬手帳にケアマネさんの名刺貼っておいて」と言っている薬剤師もいます。

## 在宅・緩和医療における薬局薬剤師の役割

**大場** 私はそうごう薬局の長崎昭和町店で管理薬剤師として勤務しています。私事ですが、祖父が新型コロナになったときに、日曜でも対応していただくなど、白髭医院でたいへんお世話になりました。一方、医師のお立場からはどんな薬局であれば依頼したくなるのかをぜひ、お聞きしたいと思っています。もちろん、かかりつけ薬局が優先になると思うのですが、それ以外でしたら24時間365日交替制で対応できるか、などといったところでしょうか。

**白髭** OPTIMで作成した訪問薬剤指導のススメのDVDの中に「薬剤師訪問によるメリット」というドラマ仕立てのコンテンツがあります。かなり基本的なことにはなりますが、この中で触れているメリットがそのまま医師が薬剤師に期待していることになると思います。まず、薬剤の正しい情報を提供して、患者さんの好みに合わせた剤形を選択すること。不要薬剤や効果の重複薬剤を整理することによるポリファーマシーの解消、患者さん宅へ訪問することで患者さん、家族の時間的負担を軽減すること。そして多職種で介入することで、副作用を早期に発見することなどが挙げられます。また薬に関することにとどまらず、食事・排泄・睡眠・運動の状況や、血圧などの看護情報、生活環境・介護環境について

も確認していただければ、医師にとっては有難い情報になります。あと入院から在宅への移行においては、退院時カンファレンスへの参加をお願いしています。そうして絞っていくと依頼できる薬局は本当に限られてきますが、近隣の医師から信頼を得ることができれば、それがどんどん広がっていくと思います。

**高山** ポリファーマシーの解消については、私たちも重点的に取り組んでいるところです。ケアマネジャーから薬を飲めていないなどの相談を受けた際には、医師に対するパイプ役となることはもちろん、生活全般についても、ケアマネジャーを中心に患者さん毎にチームを結成して、それぞれの立場でできることを積み重ねることで、患者さんを総合的にフォローアップすることにつながっていると思います。

**下坂** 薬局として患者さんに対して、そのような親切、親身な活動を続けていらっしゃるの素晴らしいと思います。医師の先生方も、薬局に対する患者さんの声を聞かれていますので、患者さんからいかに信頼されている薬局、薬剤師であるかということが一番、大切なのかなと思います。

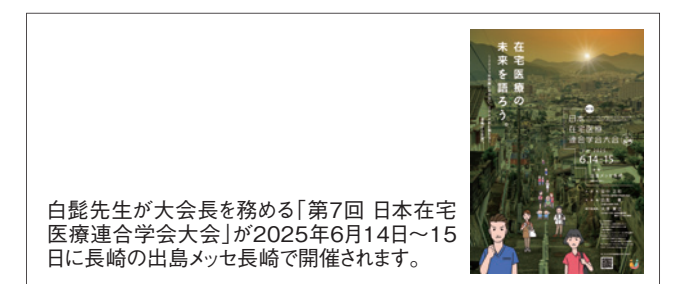
**中村** 地域連携室のスタッフや主治医も、どこに依頼すれば良いのかと迷っておられる先生はたくさんいらっしゃいます。白髭先生からご説明いただいた基本的な機能を備えていることは大前提として、普段から患者さんやご家族と良好なコミュニケーションをとっておいて、きめ細かい対応ができる薬局であれば、依頼されることも増えてくると思います。

**下坂** あとは体力ですね。特に長崎の場合、坂を上っていかないといけないので。

**白髭** 確かにフットワークと気軽に依頼できるという点は大切ですね。そういった薬局、薬剤師さんであれば、ぜひ一緒に働きたいと思います。

**柳井** 本日はお忙しいところ、ありがとうございました。この座談会がきっかけとなって、新しい連携が生まれれば願っています。今後とも、よろしくお願いいたします。

(本座談会は2024年11月に実施されました)





# 在宅医療における そうこう薬局 在宅調剤センター青砥店の取り組み

## 「安心・安全・継続」と「寄り添い、想像、覚悟」を持って、 在宅・緩和医療を続けてまいります

みよの台薬局株式会社  
そうこう薬局 在宅調剤センター青砥店 薬局長 桐山 祐紀江



そうこう薬局 在宅調剤センター青砥店は、在宅専門の薬局です。近隣の診療所や在宅クリニックから、月に約800枚の処方箋を応需しています。対応件数は、個人在宅が約100件、施設在宅が4施設です。麻薬を含む無菌調剤については、月に30件程度に対応しています。多職種連携については、担当学会議や退院時カンファレンスに出席することで、患者さんの状態について共有するとともに、医師、看護師とも良好な関係を築くことができています。情報共有については、電子薬歴システムも導入していますが、在宅訪問時にはその場で記入することはせずに、患者さんと直接向き合うことを重視しています。在宅調剤では患者さんが生活している場にお伺いすることになるので、外来調剤とは異なる心構えやコミュニケーションが必要となります。慢性期の患者さんには、「安心・安全・継続」が重要なキーワードです。副作用に注意しながら、安全で安心できる薬をお届けし、継続的にフォローアップしていくこと。そして、困りごとが起きた際に、安心して暮らしを続けるための支援を考えることが、薬剤師に求められる役割です。一方、緩和医療や小児在宅の患者さんでは、「寄り添い、想像、覚悟」がキーワードになります。患者さんやご家族に寄り添いながら、この方はお家でどのように過ごされたいのか、どのように最期を迎えたいのかを会話を通して把握し、その上で薬剤師として想像をすること、そして最終的には看取りに立ち会う覚悟も必要です。特に小児の在宅患者さんでは調剤に時間がかかることもあります。私の経験ですが、錠剤のみならず顆粒の薬剤も粉砕してほしいという医師からの要望があり、調剤だけで2日間かかったケースもあります。このように、私たち薬剤師の覚悟も必要になってきます。在宅や緩和医療では、ご家族へのフォローアップも非常に重要です。しかし、「こうすれば良い」という決まった形はありません。以前、50代のがん終末期の患者さんを担当した際、ご自宅で看取られた後に、ご家族から「本当に在宅を選んで良かったのか」と悩まれる声がありました。その際、「お母さんはご自宅で過ごせたことを本当に喜んでいましたよ」とお伝えしたところ、ご家族も少し安心されたようでした。患者さんを最期まで看取することはもちろんですが、ご家族にも「やり切った」と思ってもらえることが、在宅医療における大切なゴールの一つだと考えています。この患者さんには、退院時カンファレンスから毎日のケア、グリーフケア、そして最後のデスカンファレンス\*まで、一貫して関わることができました。今後はスタッフのモチベーションを高めて、全員で楽しく患者さんをサポートするとともに、私自身としてはこれまでの取り組みを学会や論文、社内の学術大会などで発表し、在宅への関心を高め、在宅に取り組む仲間を増やしたいと考えています。

\*デスカンファレンス：患者の死亡後に経過や介入の内容などを振り返るカンファレンス。終末期ケアにおける課題を抽出し、今後の終末期ケアの質の向上を図る。

### そうこう薬局 在宅調剤センター青砥店の取り組みを 日本薬局学会学術総会のシンポジウムで発表しました。

#### 第18回日本薬局学会学術総会

(2024年11月2日(土)～3日(日)、パシフィコ横浜)シンポジウム10

「がん領域における薬剤師に期待されること～外来がん薬物治療から終末期在宅まで～」  
SY10-3  
「終末期の患者に寄り添う中で感じること～薬局薬剤師の立場から～」

### みよの台薬局 門前仲町店とそうこう薬局 在宅調剤センター青砥店の 取り組みをまとめた論文が、医療薬学誌に掲載されました。

医療薬学2025年51巻1号 p.20-28

「保険薬局における医療用麻薬注射剤の無菌調剤に関する実態調査」



そうこう薬局 在宅調剤センター青砥店  
東京都葛飾区青戸5丁目14-5  
青山マンション103  
TEL:03-3838-3011 FAX:03-3838-3012  
(営業時間) 月～金 9:00～18:00  
土 9:00～14:00  
日・祝 定休日

## 総合メディカルの在宅関連研修 (2024年度開催)

総合メディカルでは、今後も増加すると考えられる在宅ニーズに対応するために、関係部署が座学や実務的な実習など、さまざまな研修を実施しています。今回はその一部を紹介します。

### 基礎編

#### 専門薬剤師が教える薬物治療のポイント(在宅分野)

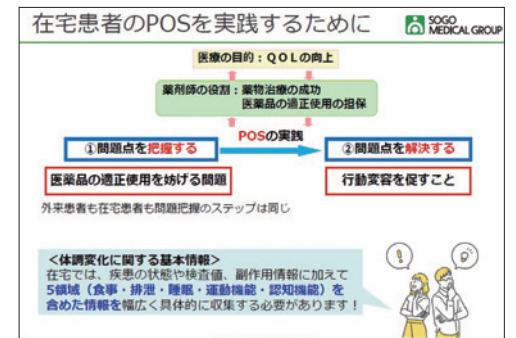
定期入社社員研修の一環として実施(推奨研修)。「在宅医療で薬剤師が気をつけるべきポイントは?」「他職種と連携して患者の情報を収集するには?」などについて、実例を交えながら学んでいきます。

#### 在宅訪問初心者のための問題解決入門～療養支援における5領域の考え方とトラブルシューティング

2024(令和6)年度調剤報酬改定では、在宅診療に関する見直しが多く行われ、在宅移行初期管理料の新設や在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料の改定など、患者が自宅で療養するために必要な薬剤師が担うべき役割が示されています。本講座では、自宅療養中の患者が持つ様々な問題に対応できるように、講義や演習を通じて、ポイント整理を行います。

#### 研修のポイント ～在宅患者のPOSを実践するために～

- 「暮らし」の困りごとや問題点について薬物治療評価を行い、根拠に基づいて解決に導く
  - ①暮らしを把握する
  - ②体調を把握する
  - ③薬物治療評価の実施
- 疾患の状態や検査値、副作用情報に加えて5領域(食事・排泄・睡眠・運動機能・認知機能)を含めた情報を幅広く具体的に収集する
- 医療従事者、ケアマネージャー、行政など、本人以外への介入を常に検討する



### 応用編

#### 無菌調剤研修

無菌調剤に必要な知識・技術について、講座を通じて、在宅医療を担う薬剤師としての実践値を高めていくことを目的としています。手技の基本、保険調剤のルール、配合変化の考え方などについて学んでいきます。

##### 講座内容

- 無菌調剤の流れ
- 無菌調剤の手技
- 注射薬の保険調剤
- 医療材料
- 処方箋監査
- 注射薬の配合変化
- 請求業務について
- 契約について

##### 研修の様子



院外処方箋により保険調剤が可能な注射薬の基礎、中心静脈栄養・麻薬注射薬の処方監査について講義



実際の注射薬や医療材料を使用して、注射薬無菌調剤についての実技指導を行う





## さくらファーマシー薬局 専門医療機関 連携薬局認定

2024年7月、さくらファーマシー薬局がグループで7件目となる専門医療機関連携薬局となりました。認定取得にあたって尽力された外来がん治療専門薬剤師(BPACC)の足立 昇平さんに認定取得の経緯や現在の取り組み、今後の抱負などについて、お聞きしました。



さくらファーマシー薬局  
大阪府高槻市北園町 16-13  
内田ビル1階  
TEL：072-685-2049  
FAX：072-685-2070  
(営業時間)  
月～金 9:00～18:00  
土 9:00～13:00  
日・祝 定休日



プライバシーに配慮した  
カウンターなども設置



骨健康度測定器や体組成計を常設し、  
健康測定会を実施



## そうごう薬局 日向店 専門医療機関 連携薬局認定

2024年9月、そうごう薬局 日向店がそうごう薬局グループで8件目となる専門医療機関連携薬局となりました。宮崎県では初の専門医療機関連携薬局となります。認定取得にあたって尽力された外来がん治療専門薬剤師(BPACC)の石川 裕規さん、薬局長の瀬分 利恵さん、RCS\*<sup>1</sup>として活躍する折立 友紀さんに認定取得の経緯や現在の取り組み、今後の抱負などについて、お聞きしました。

\*1 RCS(Round Care Staff)：主に薬局事務を担当するスタッフ。事務業務のみにとどまらず、待合室や店舗全体に目を向け、研修を受けたスタッフがケアを行っている。



そうごう薬局 日向店  
宮崎県東臼杵郡門川町南町4-147  
TEL：0982-68-0112  
FAX：0982-68-0113  
(営業時間)  
月～金 8:30～18:00  
土 9:00～12:00  
日・祝 定休日

写真左から、瀬分薬局長、石川さん、折立さん



OTCや健康食品、SOGO SMILE商品の販売も  
充実した店内

### COMMENT



## 地域のがん治療の底上げと、 患者さんへのアピールを続けてまいります

さくらファーマシー薬局  
外来がん治療専門薬剤師(BPACC)  
足立 昇平

### さくらファーマシー薬局について

さくらファーマシー薬局では現在、月に1,500枚程度の処方箋を応需しています。近隣に大阪医科大学薬科大学病院(以下、大学病院)、透析クリニック、心療内科があり、集中率は50%程度です。大学病院が膠原病の治療に力を入れているため、自己免疫疾患関連の処方箋が多いことが特徴です。当薬局では、がん関連の処方箋は月に30枚程度応需しており、150名程度のがん患者さんに対応しています。

私は弊社の薬剤師活躍支援プログラム(がん)に参加し、がん治療の専門資格取得の支援を受けました。2021年7月にそうごう薬局 天神中央店に異動し、外来がん治療に関する知識やスキルを身に付けました。その後、2023年7月に学生時代を過ごした大阪の当薬局に異動し、専門医療機関認定を目指すことになりました。同時に大阪国際がんセンターで病院研修を行い、2024年6月に外来がん治療専門薬剤師(BPACC)を取得、同年7月に認定薬局を取得することができました。

### 薬局間連携について

大学病院の周りにはさくらファーマシー薬局を含めて、3軒の専門医療機関連携薬局が存在しています。この3軒が力を合わせることで、地域の

がん治療の底上げができるのではないかと考えて、「高槻薬局間連携 がん研修会」を今年から立ち上げました。この薬局間の連携が私が最も実現したかったことで、赴任直後から準備を進めてきました。これまでに5回、対面での合同勉強会を実施しています(表)。現在は連携認定を取得している3薬局がメインですが、今後は認定を取得していない他の薬局にも広げていき、高槻市全体のがん患者さんをカバーすることを目指しています。

表. 高槻薬局間連携 がん研修会 開催歴	
第1回	免疫チェックポイント阻害薬と病薬連携、薬薬連携について
第2回	抗がん薬の悪心・嘔吐について
第3回	麻薬処方箋の対応について
第4回	下痢の対応について
第5回	乳がん再発予防のための術後ホルモン療法について

### 病院との連携について

主応需先の大学病院との連携については、病院が毎年勉強会を開催しており、今年は私が講師を担当し、病院の薬剤師の先生と一緒に「トレーシングレポートにおける副作用対策のポイント」というタイトルで発表しました。病院とは都度、副薬剤部長、がん専門薬剤師と連絡を取るこ

とができる関係性を構築しています。2024年の社内学術大会では、「薬局薬剤師の職業性暴露に対する意識改革のための研修実施について」というテーマで発表しましたが、それも病院の先生にご意見を聞きながら内容を作成することができました。

### 今後の抱負

当薬局ではクリーンベンチを備えているので、地域のケアマネージャーとも連携を強化し、在宅での緩和医療にも対応を広げていきます。また、閉経前の乳がん患者さんでは、術後の再発予防としてホルモン療法が標準的に選択されています。このホルモン療法は長期間にわたるため、リフィル処方箋が発行されることも多く、再発の兆候や副作用を薬局でしっかりチェックする必要があります。そこで、専門医療機関連携薬局の3薬局で共同作成した「聞き取りフォーマット」を病院に提案しており、次回の高槻薬局間連携がん研修会でもテーマとして取り上げる予定です。今後はこうした周辺薬局との連携を深め、地域全体でがん治療の質を高めるとともに、患者さんや地域の皆さまに専門医療機関連携薬局としての役割をしっかりと発信していきます。

(本インタビューは2024年12月に実施されました)

### COMMENT

## がん治療に興味のある方は積極的にチャレンジを！

薬局長 瀬分 利恵

そうごう薬局 日向店では平均して月に2,000枚程度の処方箋を応需しており、近隣の宮崎県済生会日向病院からの処方箋が94%程度となっています。がん患者さんは月に30名程度です。今後は応需先との連携をより強化して、今回BPACCの資格を取得した石川さんが活躍できる場を広げるとともに、他の薬剤師とRCSの能力も高め、石川さんが不在の時でも十分な対応ができるよう、薬局全体として、がん患者さんへの対応能力を上げていきたいと考えています。また主応需先の病院からは糖尿病関連の処方箋も多いので、がんに限らず、糖尿病関連の専門薬剤師の育成にもチャレンジしてまいります。専門医療機関連携薬局の認定取得はハードルが高い面もありますが、がんの治療に興味がある薬局、薬剤師には、今後も積極的にチャレンジしていただきたいと思います。

## 宮崎県下初の専門医療機関連携薬局として、 地域への周知と薬局間連携を進めてまいります

外来がん治療専門薬剤師(BPACC) 石川 裕規

私は以前、がんの在宅患者さんをかかりつけとして担当していたのですが、当時は知識や経験も不足していたので、副作用のフォローアップをするにしても、何を聞けばいいのかわからない状態でした。そこから私自身もっと職能を高める必要を感じ、弊社の薬剤師活躍支援プログラム(がん)に参加しました。このプログラムでは、専門資格の取得支援に加えて、外来がん治療の初學者の学習支援、外来がん治療を行う医療機関との連携支援を行っています。時を同じくして、主応需先の病院からも連携充実加算に伴う薬業連携のお申し出をいただきましたので、薬局としても連携薬局の認定取得を目指すことになり、2024年8月にBPACCの資格を取得しました。宮崎県では初の連携薬局となりますので、地域の方々にがん治療に関わる専門性を持った薬局があることを周知するとともに、がん治療に取り組んでいる他の薬局との連携を進め、地域でのがん治療の底上げを図りたいと考えています。今後は麻薬の無菌調剤にも対応することで、在宅で緩和医療を受けている患者さんの対応も増やしてまいります。

## がん患者さんの生活全般に寄り添ったサービスを続けてまいります

RCS(薬局事務) 折立 友紀

南部九州薬局運営部ではRCSによるタスクチームを結成し、健康イベントの実施や、キャラバン・メイト\*<sup>2</sup>の養成を行っています\*<sup>3</sup>。現在は地域包括支援センターや、高齢者福祉センターなどを訪問し、イベントと一緒に開催しているほか、オレンジカフェでの講演も行っています。今回、日向店が連携薬局の認定を取得しましたが、RCSとしては、がん患者さんの経済面での相談に応じたり、浮腫で悩む患者さんに弾性ストッキングを紹介するなど、生活面全般での悩みに対応しています。これからも地元雇用であるRCSの強みを活かして、地域での繋がりを強化し、RCSならではの活動を続けてまいります。

\*2 キャラバン・メイトの登録により「認知症サポーター養成講座」を企画、開催し講師を務めることができる。  
\*3 南部九州薬局運営部タスクチームの活動については、APO Letter 82号、7-8ページをご参照ください。

(本インタビューは2024年12月に実施されました)



## 行政と連携してがん検診啓発イベントを開催しました

自分のカラダを知ってもっと健康になろう！  
「健康いきいきステーション」

日 時 2024年7月28日(日)11:00～15:00  
場 所 ショッピングシティ・ベル  
(福井県福井市花堂南2-16-1)  
開催内容 血管年齢・体組成・AGEs・脳年齢 測定(スタンブラリー実施)  
健康相談、大腸がん検査容器配布(福井市内にお住まいの方)  
参加薬局 そうごう薬局 越前店、福井社店、武生南店、江守中店、福井若杉浜店  
(薬剤師12名、RCS4名が参加)



来場者65名  
タヨリス\*  
新規登録者15名



福井県はがん検診受診率が全国的にも低い地域です。がん検診の啓発について福井市健康管理センターに相談したところ、今回のイベントにご協力いただけることとなり、大腸がん検査キットも配布しました。今後もこのようなイベントを通じて地域の方の健康意識を高めるとともに、行政・ヘルスケア事業者等との連携を強化し、そうごう薬局の知名度向上とタヨリス登録の推進を目指します。

\*タヨリス：電子版お薬手帳などのヘルスケア管理機能を有した総合メディカルの公式アプリ。来店予約、事前問診、オンライン服薬指導、お薬配送、お薬手帳、お薬アラーム、バイタルデータの共有などさまざまな機能が利用できる。

## そうごう薬局 麻布台ヒルズ店

## 「こども薬剤師体験会」を開催しました

日 時 2024年7月28日(日)、8月4日(日)10:00～13:00  
場 所 そうごう薬局 麻布台ヒルズ店  
(東京都港区麻布台1-3-1 麻布台ヒルズタワープラザ4階)  
開催内容 麻布台ヒルズビル内のテナント対象の夏休みの子ども向けイベントに出展、薬剤師の仕事を体験する(ピッキング、塗り薬の計量、オンライン服薬指導など)



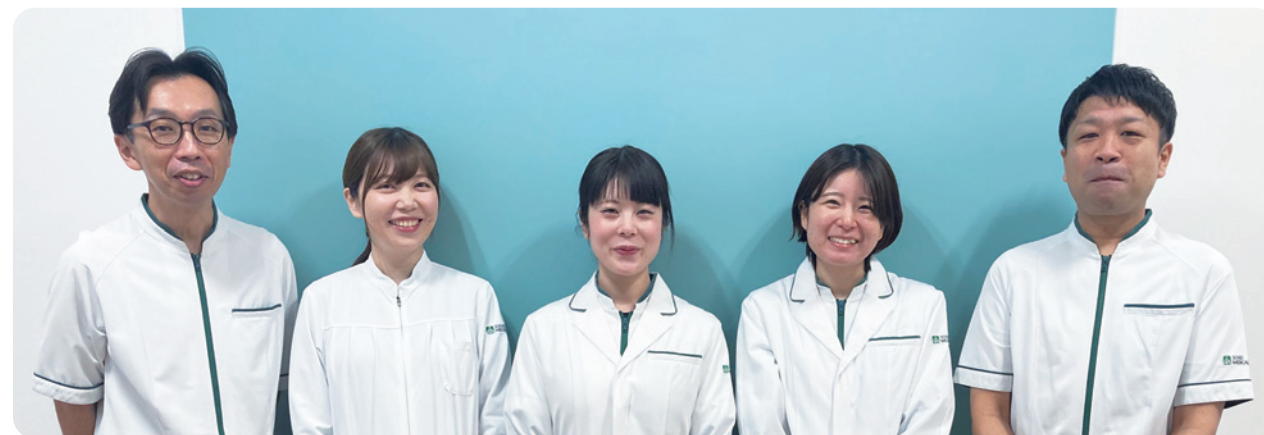
来場者38名  
(大人20名、  
子ども18名)



そうごう薬局 麻布台ヒルズ店は近隣にドラッグストアがないため、OTCを購入される方も多く、多様なニーズにお応えできるよう、セルフメディケーションの対応を強化しています。また管理栄養士も在籍していますので、病院と連携し栄養指導を実施していますが、今後はさらに地域の方に向けても周知していきたいと考えています。

## 1型糖尿病患者会の開催 —そうごう薬局 天神中央店—

そうごう薬局 天神中央店では、1型糖尿病の患者さん同士で情報交換する機会を提供することを目的に、1型糖尿病の患者会を2022年からこれまでに7回開催しています。地域糖尿病療養指導士の資格を持つ薬局長の中村泰朗さんと浅野陽香さんに、立ち上げの経緯や今後の抱負などについて、お話をお伺いしました。



天神中央店 糖尿病担当薬剤師の皆さん(左から中村泰朗薬局長、浅野陽香さん、杉野千尋さん、岩田千恵さん、郡司清志さん)

## 患者さんに「場」を提供することだけでも有意義なものになります

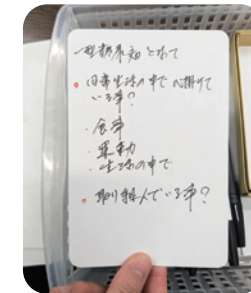
そうごう薬局 天神中央店では、疾患別薬剤師担当制を導入し、がん患者さんと糖尿病患者さんにそれぞれ専門薬剤師が対応する体制を整えています。糖尿病については、地域糖尿病療養指導士の資格を持つ薬剤師が4名在籍しています。一日に250枚程度の処方箋を応需しており、そのうち4分の1程度が糖尿病関連で、1型糖尿病の患者さんが30名程度いらっしゃいます。1型糖尿病の患者さんについては、地域で患者会も開催されていますが、病院・クリニックが主催で、そこに通院している患者さんに限定されるケースがほとんどです。天神中央店では、通院している医療機関の制約なしに、1型糖尿病の患者さん同士で情報交換する機会を提供することを目的に、2022年から1型糖尿病の患者会を開催しています。これまでに7回開催し、延べ31名の方にご参加いただきました。

1型糖尿病の患者さんは食事や生活習慣が原因となっている訳ではないので、患者会でも一般的な生活指導などを行うのではなく、患者さん同士が自由に話し合うことのできる場を提供するようにしています。インスリンポンプの使い方や食事の工夫など、共通の話題で盛り上がる事が多く、開催後にアンケートをとると、ほとんどの患者さんがまた次も参加したいとおっしゃっています。「患者会の開催」というと、どうしても身構えて難しく考えてしまいがちですが、普段同じ病気を持つ患者さん同士で交流する機会のない方々に場所を提供するだけでも、十分有意義なものになりますので、今後も継続して実施してまいります。

薬局長 中村 泰朗 薬剤師 浅野 陽香



患者会の様子



参加者、薬剤師からの質問を記入して話題として提供するカードを作成

この取り組みは、  
JADEC年次学術集会においても  
ポスター発表されました。

第11回JADEC年次学術集会  
2024年7月20日(土)～21日(日)、  
国立京都国際会館

ポスター発表  
「保険薬局における1型糖尿病の患者会の  
実施報告」



そうごう薬局 天神中央店  
福岡市中央区天神1丁目3-38  
天神121ビル1階  
TEL:092-734-7311 FAX:092-734-7312  
(営業時間) 月～土 8:30～18:30  
祝日 9:30～18:30  
日 定休日



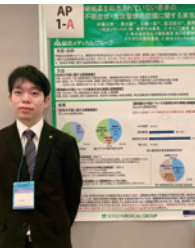
# 2024年 学会発表演題紹介

## 第18回日本薬局学会学術総会 薬局の、底力。「本質」を創る今を。

開催日：2024年11月2日(土)～3日(日) パシフィコ横浜(横浜市)

当グループより、薬剤師12名、薬局事務(RCS)1名(計13名)が発表しました。

ポスター発表	睡眠薬を処方されていない患者の不眠症状・生活習慣の問題に関する実態調査 美原中央薬局 伊藤 元気
発表概要	不眠症は国民5人に1人、睡眠薬の使用は20人に1人といわれているが、薬局において睡眠薬を服用していない患者の不眠に関する調査報告はほとんどない。そこで、不眠に悩む患者に対する薬剤師の介入方法について検討する目的で、患者の不眠に関する実態調査および薬剤師の患者対応の実態と認識調査を実施した。



## 第17回日本在宅薬学会学術大会

### 2040年を見据えた“在宅薬学”の更なる前進—プラネタリーヘルスへの挑戦—

開催日：2024年7月14日(日)～15日(月・祝) 出島メッセ長崎(長崎県長崎市)

当グループより、薬剤師3名が発表しました。

ポスター発表	居住系施設で求められる服薬支援に関する薬剤師・施設職員へのアンケート調査 そうごう薬局 ミヤノ店 平井 鮎
発表概要	薬局薬剤師は居住系施設職員と協働し患者の服薬管理を支援することが期待されており、薬局-施設間で薬剤師が介入・支援すべき内容を共有する必要がある。施設における薬剤師による支援内容を再検討することを目的に、アンケート調査を実施した。



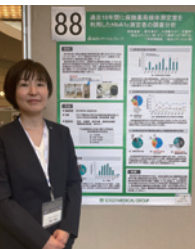
## 第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会

### くすりと人をつなぐ新しい患者支援の輪=共に踏み出そう未知の奥へ=

開催日：2024年10月5日(土)～6日(日) 仙台国際センター会議棟(仙台市)

当グループより、薬剤師3名が発表しました。

ポスター発表	過去10年間に保険薬局検体測定室を利用したHbA1c測定者の調査分析 そうごう薬局 HAT神戸店 岡部 真実
発表概要	2014年4月に厚生労働省が検体測定室に関するガイドラインを示したことに伴い、そうごう薬局 HAT神戸店では、2014年9月より検体測定室を運営している。検体測定室の主目的は、定期的な血液検査を実施していない未病者の生活習慣病の早期発見であるが、患者の定期的な検査値の確認のための利用もみられる。今回、当薬局の検体測定室が有効に機能しているかを評価する目的で、設置から10年間のHbA1c測定者の利用実態を調査・分析した。



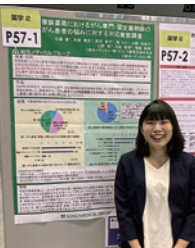
## 第62回日本癌治療学会学術集会

### がんを知り、がんと向き合い、未来を生きる—Live for the future with facing cancer—

開催日：2024年10月24日(木)～26日(土) 福岡国際会議場、福岡サンパレス、マリンメッセ福岡A館(福岡市)

当グループより、薬剤師3名が発表しました。

ポスター発表	保険薬局におけるがん専門・認定薬剤師のがん患者の悩みに対する対応実態調査 そうごう薬局 天神中央店 江淵 愛
発表概要	生死を前にしたがん患者の悩みは様々なものが報告されているが、そのような悩みに対し保険薬局薬剤師がどのような対応をしているかについての報告は限られている。そこで今回、がん患者の悩みや相談に対し、高度な専門性を有する薬剤師の患者対応の実態についてまとめることを目的に、総合メディカルのがん専門・認定薬剤師と認定取得を目指している薬剤師を対象に、日常業務で関わるがん患者の悩みや薬剤師の対応について調査した。



## 第34回日本医療薬学会年会

### 未来の医療をデザインする薬学・薬剤師の視点

開催日：2024年11月2日(土)～4日(月・休) 幕張メッセ 国際会議場・展示場、TKP東京ベイ幕張ホール(千葉市)

ポスター発表	専門医療機関連携薬局が実施する他の薬局薬剤師を対象としたがん薬物治療に関する研修の実態調査 総合メディカル株式会社 本田 雅志
発表概要	専門医療機関連携薬局の役割の一つに「他薬局の薬剤師に対してがん等の専門的な薬学的知見に基づく調剤及び指導に関する研修を継続的に行うこと」が挙げられているが、その実態については不明なことも多い。そこで今回、効果的・効率的な研修を検討するための事前調査として、総合メディカル(株)に所属する専門医療機関連携薬局の6薬局に対して、他薬局への研修の実態について調査を行った。



# 総合メディカルの人財育成

総合メディカルでは、マネージャーを目指すための研修や、薬剤師としての専門性向上を目指すための研修などを多数実施しています。本コーナーでは人財育成部 白濱シニアマネージャーより、研修でお伝えしている内容の一部を連載にてご紹介致します。

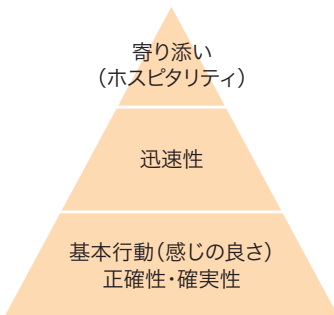
## マネージャーに必要なキーワード 「顧客満足」について

### 「顧客満足(CS:Customer Satisfaction)」とは

顧客満足(CS)とは顧客が製品やサービスを利用した際に感じる満足感や達成感を指します。顧客満足の維持・向上は、企業が持続的に成長するための基盤であり、継続的な改善行動が必要となります。選ばれる薬局になるためには、顧客との信頼関係を築くとともに、安全で質の高い患者ケアを提供できる環境づくりが重要です。

### 薬局長を目指す方のための研修(マネジメント研修ファースト)について

- 研修概要  
本研修では、理想の薬局をつくるために、薬局長に必要なマインド・知識・スキルを約3か月にわたって学びます。eラーニングや講義のほか、グループ討議を通じて受講者同士で学びあう場を提供しています。
- 研修内容 「顧客満足向上のための考え方」について  
顧客満足向上のための考え方を伝える際、研修では下記の様に説明しています。  
『私たちは顧客に寄り添い、顧客の期待を超えるサービスの提供を日々追求しています。しかしながら、挨拶や言葉遣いなどの基本行動・正確性・確実性のように、顧客が当然叶えられていると思っていることが満たされていないければ、成しえません。』そのため、当社では顧客満足向上のために基本行動の強化を中心とした取り組みを継続的に行っています。研修においても、顧客満足の重要性や薬局長として取り組む上での姿勢について学びます。



## 専門性向上に必要なキーワード 「症例報告」について

### 「症例報告」とは

薬剤師は患者ケアにおいて薬物治療の成功を妨げる個々の問題を把握し、解決に導くべく、処方提案や情報提供を行っています。症例報告は、事実・根拠に基づいた評価・判断のプロセスを言語化したものです。薬剤師が症例報告を記載する意義は多岐にわたり、知識の蓄積・共有や臨床実践の向上、後進育成などにつながります。認定資格取得の際に症例報告の提出を求められることもあります。

### 専門薬剤師養成講座について

- 研修概要  
当社では専門性の高い薬剤師を「専門薬剤師」として社内認定しています。本講座では必要となるマインド、コミュニケーションスキル、症例報告の作成スキルなどを約9か月にわたって学びます。患者応対ロールプレイや講義、グループ討議を通じ、受講者同士で学びあう場としています。
- 研修内容 「症例報告と症例検討会」  
症例報告の作成は、自身が行った患者ケアについて、問題把握や解決のプロセスを振り返るトレーニングになります。また、よりよいケアにつなげるための取り組みとして「症例検討会」を行うことも有効です。症例報告書を題材に意見交換を行い問題点を再評価し、今後のケアプランの策定につなげます。経験の共有や最新の医療情報をアップデートできるほか、他のメンバーからのフィードバックを受けることで、自己の知識やスキルを見直す機会にもなります。





vol.90

2025年3月発行 発行／総合メディカル株式会社  
〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名 2-9-23  
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

